二〇二二（令和四）年度　長野大学　総合型選抜

小論文

次の文章を読み、設問一および設問二に答えなさい。

この百年に、人類の社会の大部分は、不確実性・不透明性を削減・縮小することを目指して発展してきた。大局的にみれば、あらゆる側面で確実性を増大させ、個人の生活と社会双方の安定性や安全性を高めていくことが、人類の幸福につながると信じられてきた時代だったのではないかと思う。

（中略）

けれども、人類の社会は、予測不可能な事柄や偶然性の存在によっても成り立ってきた。個々の努力や資質ではいかんともしがたい予測不可能な出来事や偶然は、人間のもつ根源的な脆弱性を開示し、他者や社会に対する能動的な働きかけを引き起こす原動力でもあった。ただ待つ、とりあえず信じてみるという賭けが偶然に成功することは、他者や社会を肯定的に意味づける契機にもなってきた。

偶然性は、自己と他者の出逢いをかけがえのないものに彩り、私に呼びかけてくれた人を特別なものにし、ほかならぬ人びとに対する友情や愛情、贈与や返礼を根拠づける要素のひとつとなってきた。運や縁、予想外の驚きは、宗教や芸術を生みだし、個々の人間の創造性のみならず集団や共同体、社会の独自性を育む機会となってきた。

それゆえ私は、このまま不確実性を削減していく動きが進展するならば、百年後の未来は、偶然や予測できないことの価値、意味のない行為や無根拠な感情の価値を日常のささやかな瞬間において問い直しながら、ふたたび政治や経済、文化や芸術に至るあらゆる側面に「不確実性・不可知性」を再創造していく時代となると予想している。

私が現在調査している香港のタンザニア人たち（註）は、ＳＮＳのプラットフォームや電子マネーを活用して、アフリカ諸国の人々に商品を販売する、独自のシェアリング経済のしくみを形成している。彼らもトレーサビリティや透明性といったインターネットや電子マネーが実現する信用を利用しているが、確実な取引の遂行のためにＳＮＳ上に集う仲間を資産や実績などで格付けする評価システムには否定的である。彼らは、誰が信用できるか不明瞭なネットワークに様々なアイデアや要求を投げ捨て、誰かが応答するのをただ待ち、偶然に応答した相手に賭けるという方法で商売をする。無限に拡大するネットワークの中の人々は誰もが得体の知れなさを帯びており、実際の取引では裏切られることも多々ある。だが、それで良いのだと、彼らは言う。

香港のタンザニア人は、偶然に応答する者が現れると「彼／彼女は私のことが好きだ」と語る。誰が信用できるかわからない世界で私に賭けてくれたのだから、彼／彼女は私のことが好きに違いないという論理が成立しているようだ。むしろ彼らは、この無根拠で幸せな確信のために、誰が信用できるかわからないという不確実性のある世界とそこへの自己の投企を肯定しているようにみえる。

（中略）

もし、百年後の人類が、既に獲得した物質的・精神的な豊かさを捨てずに原初的な人類のユートピアを実現しているのだとしたら、それはきっとテクノロジーがもたらしうる先が見える世界、予想外の可能性のない世界の隙間に、自身と世界が存在するまったき偶然それ自体の豊かさを復活させているはずだ。

（註）　問題文の著者は、タンザニアの零細商人の商慣行や共同性等に関する研究、香港・中国とアフリカ諸国との交易に関する研究に取り組んでいる（参照：立命館大学研究者学術情報データベース）。

（小川さやか「世界が存在する偶然を」『アステイオン』91所収。一部改変）

二〇二二（令和四）年度　長野大学　総合型選抜

小論文　解答用紙

受験番号	
FF—	
TT—	
JJ—	
	氏名

設問一　要旨を二〇〇字（二〇字×一〇行）以内で書きなさい。

10　5

（設問二は裏面にあります。）

設問二　著者の主張をふまえ、あなたの意見を四〇〇字（二〇字×二〇行）以内で書きなさい。

下書き用